

map system 314

filling up & fuel save

この度は弊社製品<map system314>をお買い上げ頂き、まことにありがとうございます。本製品はエアフロー(圧力)センサーの信号をより最適に制御することにより燃費・加速フィーリングを改善させるコントローラーです。(以下map314と略す)

本製品を安全にご使用して頂く為に、装着ならびご使用の前に必ず本説明書を読んで、内容を十分に理解のうえ取り付け作業をおこなって下さい。

お願い! 本製品は性能向上、適合追加他の理由により、頻繁に取り扱い説明書の変更をおこなっております。お手元の取り扱い説明書のVol番号が最新でない場合はご面倒でも当社ホームページ上の取り扱い説明書を参考に取り付け、調整をおこなって下さい。

警告 死傷につながる恐れがある事故を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 運転者は、走行中に本製品を操作しないで下さい。運転操作の妨げになり、事故の原因となってしまいます。
- 本体は運転の妨げにならない場所へ固定して下さい。
- 本製品はエアフロー(圧力)センサー信号制御を目的に製作されています。配線の接続及び、使用方法を間違えると車両の不調・破損・事故をきたす場合が考えられますので十分慎重に取り扱い下さい。なを何かの原因で車両の不調・事故が発生しても当社では一切の責任を負えませんのでご了承下さい。
- 車両の燃費は走行条件、エンジンコンディション等により変化します。map 314装着により必ず燃費が改善されるとは限りません。

注意 負傷または、車両や商品の損傷を未然に防ぐ為の事項を示してあります。

- 取り付け作業はエンジンを停止させ、専用設備をもった安全な場所でおこなって下さい。必ず専門の業者に依頼して下さい。
- 本製品およびハーネスを高温部もしくは水のかかる場所に設置することは絶対にさけて下さい。また製品を落としたり、衝撃を与えたりすると故障の原因になります。
- 製品を分解もしくは改造して使用した場合、当社では一切責任を負うことが出来ません。
- エアクリーター、マフラー等を交換、ブーストUPしてある車両は調整を間違えるとエンジン破損の可能性があります、調整は十分慎重におこなって下さい。

【取り付け方法】

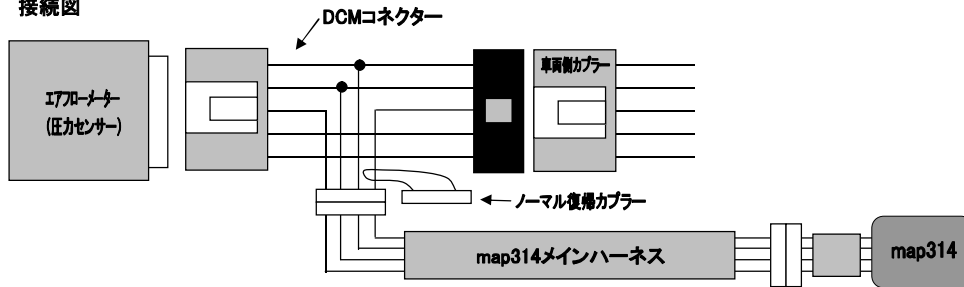
- 取り付けには必ずセンサー別のDCMコネクター(別売)が必要です。センサーへの接続方法はDCMコネクターの説明書を参考におこなって下さい。
- 接続図を参考に配線を接続して下さい。(注意! 配線はエンジンルームから車内へ引き込む必要があります)
- map314本体を付属の両面テープにより、車内の運転操作の妨げにならない場所へ固定して下さい。



注意

- ◎ 本体は防水処理はおこなっていません。必ず車内へ本体を固定して下さい。
- ◎ 配線はファンベルト等に干渉しないように引き回して下さい。
- ◎ 配線は点火系、インジェクター系、オーディオアンプ、地デジ等のノイズが発生しやすい配線と束ねないで下さい。誤動作する可能性があります。

接続図



【作動確認方法】

- 本体が正常に働いているかmap314のLEDの状態にて確認して下さい。



アクティブLED

- ◎ map314の制御が始まるとアクティブLEDが点灯します。
- ◎ アイドリング時(冷間時除く)→LED消灯
- ◎ エンジンカラ吹き時→LED点灯(一瞬)
- ◎ 作動が正常でない場合はカプラーの接触等を再確認して下さい。
- ◎ IGキーONの状態では map314aの本体はLED消灯、map314b,cの本体はLED点灯します。

【調整方法】

- 本体のボリュームを回すことによりmap314の最良の位置を決定して下さい。(11段調整)

ノーマル位置



- ◎ ノーマル位置→時計の10時の位置がノーマル状態になります。
* 実際の目盛りはありませんので時計の位置関係にて確認して下さい。
- ◎ ボリュームを右に回すと→燃料値薄め、点火時期早めをアクセスします。
- ◎ ボリュームを左に回すと→燃料値濃いめ、点火時期遅めをアクセスします。
- ◎ ボリュームを時計の11時~3時の位置の範囲にて調整し、フィーリングが最良の位置を決定して下さい。(Oの位置/推奨位置です! 状況により調整)
- ◎ ノッキングが出る!トルク感がない!等の状況の場合はボリュームを左方向に回して適正な位置へ調整して下さい。

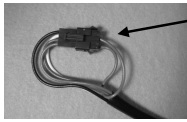


注意

- ◎ 走行中の調整は大変危険です。調整は必ず車両停止時におこなって下さい。
- ◎ 設定があていない状態で走行した場合、エンジン破損等の危険があります。調整は十分慎重におこなって下さい。(特にターボ車)
- ◎ ボリューム位置3時~5時に調整・テストする場合はノッキング状態、水温、空燃比の状態を考慮した調整をおこなって下さい。
- ◎ エアクリーター、マフラー等を交換、ブーストUPしてある車両は調整を間違えるとエンジン破損の可能性があります、調整は十分慎重におこなって下さい。

【ノーマル復帰方法】

- 万が一、エンジン不調等の症状がでる、エンジンチェックランプが点灯する場合は、下記の要領にてノーマル状態へ戻して走行して下さい。



ノーマル復帰カプラー

- ◎ DCMコネクタの4極カプラーより、map314の4極カプラーを抜き、DCMコネクタ側へノーマル復帰カプラーを差しなおして下さい。

ノーマル復帰しても不調の状態が直らない時は？

- ◎ DCMコネクタをセンサーより抜き、完全にノーマル状態に戻して下さい。
- ◎ 完全にノーマル状態にしても直らない場合、map314の制御とは関係の無い部分の原因が考えられます

重要！DCMコネクタはエンジンルーム内で使用する為、長期間使用した場合ハーネスが損傷し接触不良をおこす可能性があります。必ず2年以内に新品と交換して下さい。

【トラブルチェック】



警告 エマージェンシーモードに入り、エンジンが吹けあがらない状態になった場合は大変危険です、車両を安全な場所へ一旦停車させ、エンジンを停止し1～2分後にmap314をノーマル状態にして再始動させて下さい。

<アイドリング不調>

- ハーネスの挿入方向、接触等を再確認して下さい。
- 取り付け作業時にバッテリーをはずしてしまった時はアイドリング学習が必要です。カーディーラー等にて確認して下さい。

<エンジンチェック点灯、吹けあがらない>

- ディップスイッチの設定を確認して下さい。
- ハーネスの接触、挿入方向を再確認して下さい。
- ホンダ車の場合圧カセンサー付近に同形状のカプラーのスロットルセンサーがあります。スロットルセンサーのカプラーに接続した場合、正常に作動しません。
→必ず圧カセンサーのカプラーへ接続して下さい。

<作業中のミス等にてエンジンチェックが消えない場合>

- カーディーラー等の専用機器のある工場にてエンジンチェックランプを消してもらって下さい。
- スズキ車の一部車はバッテリーを20～30秒はずすことにより消えます。
- 正常状態にて走行し、3～5回走行→エンジン停止を繰り返すと自動的に消える車両が一部あります。(参考)